

武部建設株式会社（岩見沢市）

戦後、造林と木工場から創業した岩見沢市内の建築事業者です。90年代から民家再生事業に着手し、2005年にはNPO法人「北の民家の会」を結成。以降、講演などを通じ古材の再生を積極的に発信しています。

[URL] <https://www.tkb2000.co.jp/>



ゼロカーボンの取組

○取組のきっかけ

武部建設(株)の古民家再生の取組のきっかけはとてもシンプルなもの。それは、伝統的工法で建てられた民家が、再利用されず廃棄されていく現状に対する疑問でした。

「いま行動を起こさなければ、資源である古材、またそれを回収し再生する職人の技術、この両方が失われてしまう。」

脱炭素を意識してのことではありませんが、これをきっかけとした取組が、結果として再利用によるCO2の固定・排出の時間的調整(※)や省エネによる脱炭素対策にも繋がっています。

(※)製材した木材は成長期にCO2を吸収(固定)し、建築物となって解体された際は、熱源として再利用されCO2を排出します。一方、建築需要は市場によって左右され、樹木の成長との調整が図られている訳ではなく、木材の需給がいつも安定しているものではありません。古材の再利用は、この問題の解決に繋がる取組でもあります。

再利用や省エネが脱炭素を推進

○古民家再生事業

古民家再生事業の脱炭素に係るメリット

- ・道産材の再利用（対象となる古民家は道産木材で建築されている）
- ・古材は良質な建材（自然にしっかりと乾燥されている）
- ・省エネルギー（再生には職人の労力だけでよい）
 - 樹木の建材としての利用期間は、その樹齢の倍とも言われています。つまり、樹齢100年の樹木であれば、建材として200年使用できます。



保管している古材／武部建設(株) 三笠事務所 2022年9月撮影

ZERO CARBON ゼロカーボンの取組

○古民家再生事業

古材の風合いを活かし、北方型住宅を実現する高度な技術（古材の回収にも適切な解体の技術が必要とされます。）



再生された古民家（武部建設(株)三笠事務所）2022年9月撮影

<古材利用のCO2固定量>

- ・代表的な古材樹種：カツラ
- ・代表的な柱1本を

古材利用した場合
(サイズ150mm×150mm×3,600mm)
→約74kgのCO2固定効果

- ・一般的な住宅(木材40m³使用)を
古材利用した場合
→約37tのCO2固定効果

※令和3年10月1日 3林政産第85号 林野庁長官通知
「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に
関するガイドライン」に基づき算出



再生中の古材

POINT 特に力を入れていること 工夫している点

○人材育成（自社職人と技術）

古材に対する価値は、その風合いやリサイクルだけではなく、「北方型住宅」としての優れた住宅性能を併せ持つこそ。そのため自社で職人を抱え、人材育成に注力しています。

○古材をシンボリックに見せる

古材は建材の一つの選択肢であり、その良さをどう伝えるのか、より効果的なアプローチの工夫を心がけています。

FUTURE VISION 今後の目標・取組

武部建設(株)では、中小企業だからできることを真摯に考え、今後も各所属団体を通じて、建築のあり方について、その意見を発信し続けます。

また、人材育成が地域の雇用につながるように、建築を通じて幅広く地域・社会・環境に貢献していきます。